

## 旧街道ウォーク341★古代東海道[29] [古代東海道 2008 その8] 「三ノ輪～江戸川」活動報告

【日 時】2008年12月7日(日) 11:00～17:20 快晴

【コース】三ノ輪(浄閑寺) → 南千住(延命寺・回向院) → 白髭西防災拠点(胡録神社) → 水神大橋 → 白髭東防災拠点(梅若門) → 鐘ヶ淵 → 四ツ木橋 → 立石<昼食休憩、商店街散策、立石祠> → 奥戸橋 → 北小岩 → 江戸川堤防(12km)

【参加者】○大竹亮、安藤文、磯田尚子、岩田清、磐田江利子、梶川義実、片桐拓朗、加藤栄子、北橋伸一、児山文一、斎藤健一、佐藤晶子、清水俊哉、高梨健一、長澤純一、西藤大真、福田伸之、◇古里実、松野栄明、水谷晴子、矢作峰子、山川紀子(22名)(○は主催者、◇は一部独自踏破)

### 【概況説明】

この日は12月の初めにしては非常に寒い、しかし快晴の一日でした。前回、日没で中断した三ノ輪からスタートし、浄閑寺、回向院を経て隅田川西岸の白髭西防災拠点へ。水神大橋で隅田川を渡ったあと白髭東防災拠点を抜け、隅田川神社付近で古道ルートに戻りました。ここから先は、学説上もほぼ異論のない古代東海道の痕跡をほぼ一直線に東へ向かいます。四つ木橋で荒川放水路を渡り、立石で遅めの昼食休憩となりました。ここで地元のK氏からかつての立石の賑わいの話をお聞きし、また商店街や史跡を案内していただきました。立石様、熊野神社に詣でてからK氏に見送られて中川を奥戸橋で渡り、東への直線道をひたすら進み、夕闇の江戸川西岸に立つことができました。対岸の段丘上に下総国府を幻視し、ここで日没終了となりました。

### 【評価結果】

古代官道らしさについては、全体の2/3くらいが直線的なコースであることを皆さん感じとり、かなり高い評価となりました。沿道風景については、川の眺めや、新しい高層住宅や古い街並みの両方があったことから高い評価となりました。古道の史跡については、史跡は多かったものの古道に関するものが少なかったため低い評価となりました。案内表示については、古道に関するものが少なく評価が低くなりました。全体を通じての評価点は3.93で、かなり高い評価が得られました。



白髭東防災拠点と榎本武揚像



立石駅前商店街の焼鳥屋

### 【参加者の評価結果】

1◆全体を歩いた感想 評価点：3.93 内訳：AAAAAABBBBBBBB

A：さすがに古代の道が築かれた当時の風情を感じさせるものはありませんでしたが、古代の道を現代にたどることができる面白さや、さまざまな歴史的見どころ、景観に満足できました。

A：たいへん興味深く参加させていただきました。天気にも恵まれたことが幸いしましたね。低地であるゆえに川が多く、往古には難所であったことを実際に歩いてみて実感できました。

A：武蔵野台地から下総台地へ向かって、いくつもの川を渡って東京低地を横切る一直線で最短距離の道筋が感動的だった。浄閑寺、回向院、白髭東西防災拠点、立石様と庶民的な街など見どころも非常に多かった。

A：武蔵国の古代東海道最終回にふさわしく、街並みは新旧変化に富んだ魅力的なコースでした。

A：川と橋と寺社が多かったのが印象的でした。東京東部の川は（海に近いめか）幅が広く、橋もがっちりした大きなものが多いのが特徴的だと思います。スケールの大きな風景がたくさん見られて気持ちよかったです。

A：江東の地を歩いて横切ったのは初めてでした。大きな川を渡るたびに土地の雰囲気が変わる衝突感が面白かった。

A：葛飾区内の直線路は古代官道らしさを示していた。

B：今回のコースは、大きな川を何本も渡るだけでなく、小さな水路もたくさん渡った。現代だからこそ、堤防に区切られた明瞭な河川区域になっているが、古代ではほとんど全てぐちゃぐちゃの湿地帯だろうと想像される。そのことから、初期の東海道が東京湾を横切っていたことの合理性がわかる。それでも、中期には今回の経路に移ってきたということは、土木技術の進歩があったのだろうと思われる。そういう経過を想像できるのが面白かった。

B：浄閑寺、小塚原刑場跡、白髭防災拠点など見どころも多かった。立石では「立石様」は期待はずれだったが、熊野神社や大切にされている地藏尊や石仏などに歴史を感じた。隅田川、荒川放水路、中川、江戸川などの位置関係もよくわかった。小春日和の好天に恵まれた。

B：この地域を歩いたのは初めてであったが、旧来の街の感じがたくさん残っていた。大きな河川がたくさん流れていて、古代東海道は川を越えるのがさぞかし大変だったことと思う。

B：古代東海道が国府を結ぶ直線的な道とすれば、その状況が実感できた。

B：結構距離があったが、いろいろな要素に富み、天候にも恵まれ楽しく歩くことができた。

B：立石周辺は見どころが多かったが、中川が蛇行しており、かつて低湿地であったことを物語っていた。

B：三ノ輪では歴史性を感じ、東西の白髭防災拠点では関東大震災とその対策を思い、四つ木・立石では下町っぽい賑わいを楽しんだ。河川を幾つも越えて、最後に江戸川の河岸に立った。

B：自分に歴史や来歴に関する予備知識が欠けていたものだから、普通の民家や街並みにしか映らなかった場所がありました。

## 2◆特に魅力的だったところ

○三ノ輪浄閑寺：投込寺として有名であるにもかかわらず、日光道中を歩いた時はあまりよく見なかったの、いい機会だった。今回は奥にある「新吉原総霊塔」も見ることができ、昭和4年の建立と意外に新しいことがわかった。

○三ノ輪浄閑寺：明るく手入れされた境内は、投げ込み寺としての歴史の重みだけでなく、現在も人々の心のよりどころになっていると感じた。

○小塚原刑場跡、三ノ輪浄閑寺：いずれも（徳川時代の）江戸の辺縁地のひとつの象徴として、いつか訪れたいと思っていた場所でした。

○小塚原刑場跡：話聞いたことはあったが、こんな所に残っているとは。

○千住回向院：処刑場と「解体新書」が関連していることをはじめて知った。



三ノ輪浄閑寺（通称投げ込み寺）



千住回向院・延命寺（小塚原刑場跡）

○千住回向院：線路に挟まれた狭い敷地に、多くの有名無名の人々の墓がぎっしり並んでいた。歴史の裏側を見たような思いであった。

○延命寺首切地蔵：線路に挟まれた狭い空間の刑場跡がその雰囲気を持っている。

○延命寺：鉄道に囲まれた土地と、巨大な地蔵尊の対比が今回のウォークを象徴しているようにも思えます。

○延命寺：かつては小塚原処刑場があったが、今では鉄道の操車場と線路に囲まれて、柔和で大きな地蔵尊がそびえる他に何もなく、無情な気持ちになる。ひっきりなしに間近を往来する列車の轟音は耐え難い。

○常磐線をバックに鎮座する延命寺のお地蔵様：常磐線だけでなく、ひっきりなしに電車がごうごうと音を立てて行き交う場所で、静かに微笑んで座っているお地蔵様は不思議な和やかさでした。

○南千住2丁目の密集市街地：長屋住宅や看板建築が残っていて思わず写真を撮ってしまいました。

○南千住界隈の木賃宿：いちいち「カラーテレビ」「テレビ付個室」などと書いてあったり、「テレビ」の3文字が色文字で書いてあったのが、できた当時は思い起こされるようで可笑しかったです。

○胡録神社：白髭西防災拠点の中央にあって、旧汐入集落の名残りを伝える唯一の貴重な存在。周囲の高層住棟群に不思議となじんでいる。

○隅田川：上流部の蛇行して古利根川と合流する地点を見ることができた。

○隅田川と白髭防災拠点：魅力的というより印象に残ったところ。

○白髭東防災拠点：以前、木母寺に来た時に気付かなかった防災シャッターや放水銃、監視塔、各階各戸のスプリンクラーなど防災対策の工夫に感心。

○白髭東防災拠点：30年前に創られた要塞のような団地。長大な防火壁となる高層住棟、その最上部にそびえる司令塔、住棟間に隠された避難ゲート、その上部から下を狙う放水銃、各住戸の防火シャッターとスプリンクラーなど、機能をそのまま形態にしたモダニズム建築の傑作。

○白髭東防災拠点：詳しい仕組みが知ることができて、驚きと関心でいっぱいです。

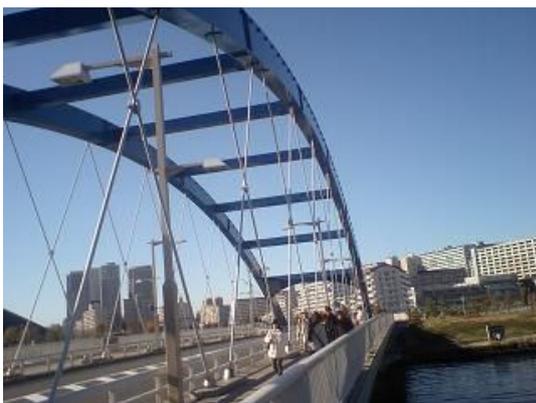
○白髭東防災拠点：魅力的というより、当時の防災に対する意識や対策に衝撃を感じ印象的でした。

○白髭東防災拠点：初めて見たがこのような立派な設備が備わっていることに驚いた。

○白髭東防災拠点：城郭のような集合住宅。

○白髭西・東の防災拠点：東の防災拠点は学生時代以来30年ぶりに訪れましたが、都営住宅でありながら意外に管理が良いことに感心しました。

○隅田川、荒川放水路、綾瀬川、中川、中川放水路と驚くほどたくさんの川：それらを渡り、この地域の地形を感じられたのが魅力だった。



隅田川を渡る水神大橋



荒川放水路を渡る四ツ木橋

○四つ木：餅つきや大道芸で商店街が賑わっていた。

○立石の商店街：いつまでも下町の元気な商店街であって欲しい。

○立石の商店街：昔ながらの下町風情がよかったです。庶民的なお店も魅力的。

○立石の商店街：昔ながらの商店街だがにぎわっている。車もバスも入れないが。

○立石の街：古代官道には無関係だが、魅力的な飲食店が多かった。

○立石の街：賑やかな商店街に市場や飲み屋街もある庶民の街。いくつもおいしい食べ物屋さんがあって、遅い昼食と懇親会をここでやったのは正解だった。

○立石祠：起源や由来がよくわからない石の遺跡は各地にあるものですが、すべてどこか遠くにあるものと思っていました。それが東京のこんな場所にあったとは！

○立石様：小さな鳥居とわずかに頭を出している石が祀ってあり不思議だった。

○立石様：伝説とは凄と思った。他地域の立石様も訪問してみたい。

○熊野神社：霊験あらたかな感じがしました。すがすがしい空間で気持ちよかったです。

○熊野神社：大きな松、門の赤、拝殿屋根の緑のコントラストが美しかった。

○熊野神社：古代の息吹を感じさせる、素晴らしい神社でした。

○奥戸の中川から見た富士山：思いがけないところで夕日に染まる富士を見た。

○奥戸の中川から見た富士山：あの付近から見るとは意外。

○奥戸橋からの富士山：夕焼けの空に富士山が大きく見えた。旧街道と富士の組み合わせもよい。

○奥戸橋からの富士山：奥戸橋から本奥戸橋越しに夕焼けの富士山を望めたのは大変ラッキーでした。

○中川からの富士遠望：水面の向こう、東京の市街地の遙か彼方に、夕日のシルエットになった富士山を見ることができた。すばらしい風景だ。

○京成小岩の商店街：夕闇濃い商店街の店の明かりが妙に懐かしかった。

○江戸川堤防：かなり暗くなってからついに到達した江戸川堤防からは、対岸に国府台のこんもりした森が黒々と見え、ついに下総台地に到達したのだと感無量であった。



立石駅付近の商店街



京成小岩商店街の古代東海道

### 3◆古代官道らしさ 評価点：3.92 内訳：AAAAAABBBBBBC

- A：非常に高い直達性があった。古代官道に間違いなしだと思う。
- A：武蔵野台地（豊島郡衙）から下総台地（下総国府）に向けて、東京低地（下町）を最短距離で抜ける一直線の古道であり、途中には「立石様」も残るなど、古代官道であることが実感できた。
- A：地図上でまさに一直線なので、説得力あります。
- A：鐘ヶ淵から東はほぼ一直線の道で古代官道らしさが強かった。
- A：直進的なところが古代官道らしく思えました。
- A：鐘ヶ淵から江戸川に至る今回のコースが一番直達性を感じました。「立石」の名の由来や江戸川堤防から見た下総国府があったとされる段丘の森も古代官道を感じさせました。
- A：葛飾区内は古代官道らしさを感じた。
- B：中川を渡って、江戸川までの間、見事に真っ直ぐだった。隅田川では、伊勢物語の在原業平東下りや、人買いにさらわれた公家の子息梅若丸が非業の最期を隅田川河畔で遂げ、都から捜し求めて来た母が間に合わず霊と巡り会うという梅若伝説の道筋を実感としてつかむことができた。
- B：川の多い土地らしくところどころ歪んだり途切れたりつつも、しっかりと国府台を目指す直線路。よくぞ現代まで残ったものだと感慨深く思いました。

B：渡河部分を除きほぼ直線だった。

B：まっすぐひたすら東進する。

C：特に古代の道を感じるところは無かったが、武蔵の国が東山道から東海道に所属が変り最短距離を結ぶ官道だと想像される。

ー：評価はよく分かりませんが、今回はひたすらまっすぐだったなあ、という感想です。史跡は、「古代」というほど古いものはなかったような気がします。

#### 4◆沿道風景の魅力 評価点：4.06 内訳：AAAAAAAAABBBBBBB

A：どこまでも続く一直線の道筋が何よりすばらしい。また、白髭東西の大規模再開発の高層住棟群が残された神社や隅田川の風景に不思議となじんでいた。中川からの思いがけない赤富士の遠望は絶景だった。日没後の北小岩（旧鎌倉町）の商店街も、暖かさを感じた。最後の江戸川では、宵闇の中に対岸の国府台の森が黒々と茂って、ついに低地を横断して台地に到達したことを実感した。

A：南千住駅前歩道橋から見た隅田川貨物駅（というか、たくさんの線路）。ここから貨物が全国に運ばれて行った、という話を聞いて、無機的にしか感じられなかった鉄のレールの印象が、有機的なものに変化しました。魅力的というのとはちょっと違うのですが、都営白髭東アパート（防災拠点）には圧倒されました。正直なところ、こういうところに住んで、人は和めるのか？というのが疑問でした。隅田川神社の鳥居をくぐって入る入口はちょっと印象的でしたけれど。

A：四つ木橋のたもとの祠（古代東海道のルート上ではないですが）。旧街道の雰囲気ありました。

A：三ノ輪界限には、遊女の投げ込み寺・浄閑寺、小塚原刑場跡地・延命寺、刑死体解剖碑と吉展地蔵のある回向院など、負の歴史的遺産が多く、もの悲しいけれども清浄な気持ちになる。

A：奥戸橋からの富士山。夕日に映えて素敵でした。

A：奥戸の中川から見た富士山について、1月に平塚の相模川を渡る時に見た大きな富士山が、今回小さくなっていて、こんなに来たかと感動した。

A：中川から見た富士山。やはり、富士山は見るとうれしい。

A：奥戸橋からの富士山、西東、新旧の防災拠点とその周辺の密集市街地と四つの河川など、変化に富んだ風景でした。

B：そこそこ見所もあり、随所の川も魅力的だった。

B：高層建築があまり無い、江東地区らしい風景はそれなりに魅力的だと思います。

B：南千住界限の木賃宿の名残など（一般には敬遠されがちな場所ですが）、たいへん心惹かれるものを感じました。

B：川があることで、景観が色々変化するのが面白かった。

B：中川、奥戸橋から見た夕映えの富士山。

B：奥戸橋からみた夕景の富士が美しかった。

B：奥戸橋から見た富士山のシルエットは美しかった。



奥戸橋からの中川と富士山夕景



京成線の踏切を渡る古代東海道

5◆古道にふさわしい史跡 評価点：3.00 内訳：AAAAABBBBBBCCCCC

A：古代官道には直接関係しないが、浄閑寺や回向院など、厳しい歴史を思い起こさせる史跡があった。

A：隅田川の渡し場、立石様、江戸川対岸の下総国府など、古代官道ゆかりの史跡に加え、三ノ輪浄閑寺、千住回向院、胡録神社、隅田川神社など、後世の重要な史跡も多い。

A：立石周辺、川沿いの道しるべやお地蔵さんは、古道らしさを強く感じました。

A：立石周辺には怪しげで、深く調べてみたいと思わせる史跡が沢山ありました。

A：小塚原刑場跡。刑死者あつての「解体新書」だったとは、今まで考えたこともありませんでした。ここにあった説明版に、回向院は後に「顕彰、記念の地」となっていたと書かれていましたが、なんだか不思議な気がしました。(土地の印象を良くするための、つまりは意図的なものだったのでしょうか?)

B：寺、神社がいくつかあり、時代はいろいろだが古道らしさがあつた。

B：立石周辺は見どころが多かつた。

B：立石様も鳥居もひっそりとしてサイズは小さいが、公園には子供の姿があり、手入れが行き届いていた。

B：立石様は地中に埋まって姿がはっきりしませんでした。熊野神社や地蔵尊などが河川の氾濫したであろう地域に良く残っているなど感心しました。

B：自分に歴史や来歴に関する予備知識が欠けていたものだから、今回のウォーキングの趣旨である古代の道の片鱗を見出すことができませんでした。

C：「立石様」があるにはあつたが、基部だけしか残っておらず、現地案内板には古代道との関係がふれられておらず、期待外れだつた。立ち寄りなかつたが、梅若伝説のある木母寺は古道を意識させる史跡と言える。

C：立石様は「エーッ！これですか？・・・」って感じ。

C：庚申塔や道標は少なかつたように思う。

C：個々の史跡ではなく、この道そのものが史跡というべきなのかもしれないなと感じました。



白髭西防災拠点(旧汐入地区)の胡録神社



古道に縁があるとされる立石様

6◆古道や歴史の案内表示 評価点：2.57 内訳：AABBBBBBBBCCCCD

A：寺社が多かつたせいか、案内板もたくさん見ました。

A：墨田区内では、名所ごとに案内表示がありました。

B：江戸時代に関する案内表示は多かつた。

B：江戸時代の地蔵尊や道標の案内が目についた。

B：江戸期のものはあつたが、それ以前のものは少ないように思った。

B：神社、仏閣等にはそれぞれ説明がなされていた。街道、道筋についての説明は無かつたと思います。

B：墨田区にはそれなりにあつたと思いますが、江戸川区には全然無かつたように思います。

B：史跡の案内は多かつたが、古道にふれていることは少ない。

C：古道に関するものはなかつた。印刷物は出ているようなので、町中に表示してもよいのではないかな。

C：縄文遺跡や寺社の案内表示はありましたが、古道であることを示すものはなかつたような気がします。

D：案内表示は少なかつたが、疎外されている気は全くしない。

ー：たくさんありすぎて驚きました。一人で歩いたら気づかないでしょうに、皆さんすばやく見つけて、びっくりでした。

### 7◆古道を活用したまちづくりの方向について

○今回のルートでは、川をいくつも渡ってそれぞれに生活圏・文化圏があると感じたので、それぞれに活用方策があるのではないかと思います。通りの名称に取り入れるのもまちづくりのひとつでしょうか（すでに「遺跡通り」がありました）。古代の道でつながっていたことが、地域交流の材料になる可能性もあるのでは。まちの歴史を知ることは、そのまちへの愛着につながり、また精神的な豊かさにつながると思います。

○中世からの道が今も残っていることの意味を、地域のお祭りやコミュニティ活動に活かしてみてもどうだろうか。古道を軸に、街を読み解く絵地図づくりをしてみてもいい。

○奈良・平安時代の古代官道が、現代の東京のまちなかに残っていることを何よりももっと広め、活かすべき。江戸時代の浄閑寺や回向院もあり、白髭東西の防災拠点とそこに残る神社など、現代に至る歴史を学ぶ絶好のコースでもある。立石の街は、その中心となるであろう。

○立石周辺は見所が多く、蛇行している中川と絡めれば面白いのではないかな。防災上難しいかもしれないが、もう少し親水性があってもいいと思う。

○今回歩いた道は、あえて古道を掲げなくても十分魅力的だと思う。

○直線の道が現代の道に生かせる。

○古道を活用しているかどうかは分かりませんが、水神大橋の手前、胡録神社を取り囲む高層住宅街（南千住8丁目）は、戸数の多さに驚きました。けやき通りにあった、盆栽風に剪定された庭木は興味深かったです。でも、やはりここでも白髭防災拠点と同じく、こういう建物（あるいは土地）に住んで、人は心安らかに暮らせるのだろうか？という疑問でした。しがらみがない、という意味では良いのかもしれませんが。

○南千住の汐入地区の近代化された街と、立石駅周辺の下町情緒の町、互いの街のありようが比較されて面白く思いました。どちらの街づくりを目指すかは、地域の人たちの思いにあると思います。



白髭西防災拠点(南千住汐入)の集合住宅群



四ツ木・立石周辺の店舗併用住宅群

### 8◆その他、今回の企画や気づいた点などについて

○これだけの直達性のある道筋なので、発掘調査ができれば面白いだろうなあ、と思ってしまった。(T. S)

○その土地の歴史をしっかり理解していないと、古代の痕跡と普通の街並みを見分けることはできないことを痛感しました。(M. N)

○古代の道ともなると、江戸時代の街道めぐり（現物かレプリカを見られる）と違って、想像力が要求されるなど感じました。当時（古代）の道は、あまり人の住んでいない原野に計画的な直線道がひかれただけで、寂しい場所だったのでしょうか？ 古代の勉強をして行けばよかったとちょっと後悔。大竹さんをはじめ、皆さんにいろいろ解説していただき、とても楽しめました。(A. S)

○主催者の説明で防災拠点の仕組みがよくわかった。立石で安藤さんの知り合いのKさんの案内があったのがよかった。(J. N)

○今回の行程で安藤さんには大変お骨折りを戴き感謝しております。地元で御案内を頂いた、K さんにはもう少し時間をかけて、お話しを聞きたいと思いました。次回から、梶川さんが担当されますが、よろしくお願い致します。だんだん遠くなりますができるだけ参加したいと思っています。(K. I)

○この道が古代東海道であると認識して利用している人は皆無であろう。しかし、大きな河川を越えながら、今も使われている道であり興味深い。武蔵国も無事4回で抜け、いよいよ下総国です。私はだんだん遠くなりますが... (T. K)

○処刑場跡、防災拠点、立石散策、夕景の富士...と、バラエティに富んだ道程で大変面白かった。(H. M)

○成立年代や由来に関わらず、近隣の寺社・遺跡・施設を巡っていくという姿勢が、たいへん楽しめました。とくに白髭団地への寄り道はとても勉強になりました。まさに徳川の江戸の辺縁(墨引)だったラインに、あぁいった建築物が建っているという事実。これが偶然なのか計画したものなのかは別として、ついパリの城壁を連想してしまいました。「まち」の奥深さを思いました。(N. F)

○「葛飾の川をきれいにする会」の標語がいくつか目につきました。(そういう活動がさかんな地域なんですか?) お昼の食事時間については、もう少し余裕が欲しかったです。スポットで、その土地に詳しい方に来て案内していただくというのは、なかなか素敵な企画だと思いました。(M. Y)

○古道が実際に残っていると思われるルートは、やはり想定ルートに比べ迫力があるように思いました。超多忙な中、大竹さん、企画ありがとうございました。(M. F)

○日が落ちると寒かった。やはり日のあるうちに江戸川まで到達したかった。(S. K)

○白髭東防災拠点で、大火災が発生した場合に用いられることになるさまざまな仕組みを見学したが、その壮大さに震災の恐怖をかき立てられた。(S. I)

○白髭東の防災拠点が稼働するような事態が起こらないことを望む。冬の旧街道ウォークは夕日にせき立てられるように後半のピッチが上がるのが恒例だが、今回もそのようになった。魔王に追われる冬の旅のように。安藤さん、K さん、立石のご案内、ありがとうございました。長澤さん、40街道踏破、おめでとうございます。次回からは下総～常陸編です。皆様、よろしくお願い致します。(Y. K)

#### ◆主催者より、ひとこと・・・

今回はとてもたくさんの方に参加いただき、ありがとうございます。特に、初参加の方が3名もいらっしゃいましたが、楽しんでいただけたようで、うれしく思います。今後もどうぞご参加下さい。また、立石では、安藤さんのご紹介で、地元の窪田様に貴重なお話を伺い、さらには道案内までしていただき、とても充実しました。窪田様、ありがとうございました。安藤さんには、さらに昼食場所の手配(20人以上が分散して入るためにいくつも銘店を紹介)や、夜の懇親会場(超庶民的な酒場)の案内までして下さり、すっかりお世話になりました。立石の街は、とても暮らしやすそうですね!

さて、これで府中(武蔵国府)から市川(下総国府)への古代東海道も、4回でおおむね無事に踏破です。参加くださった皆さん、ありがとうございます。私の役割もここまでで、次回から梶川さんに引き継ぎます。よろしくお願い致します。そして皆さん、早春の常総路を一緒に歩きましょう!(大竹 亮)



江戸川堤防近くにて踏破記念撮影



立石駅前の庶民派商店街